





# 話題人 インタビュー 「あなたにとって『龍馬』って何ですか?」

## 映画監督 大友啓史さん “脱藩の心”を語る

**「龍馬伝」**演出家・大友啓史、NHK脱藩…この「ユースから一年余り」。話題の大友啓史さんは映画監督へと見事に転身した。八月下旬封切りの第一作映画『るろうに剣心』(ワーナー・ブラザース／佐藤健主演)は、一週間で動員百万人を突破、四週目で「一百万人を超える人気ぶり」である。この快挙に、大友組の俳優はじめ関係者、もちろんファンたちは大いに沸いている。

映画封切り前、大友監督は大学生や小さな記念館企画で、俳優の青木崇高さんと一緒に、日本全国を駆け回っていた。そんな中の記念館企画で、俳優の青木崇高さんとトークセッションをしていただいた。その直前のインタビューである。

大友監督に聞きたいことは、ズバリ。「あなたにとって龍馬とは何ですか?」なぜNHKを辞めたんですか?」

### 龍馬の気持ちで、 大河ドラマをチエンジ!

——まずは、龍馬との出会いになつた『龍馬伝』についてお伺いします。いろんなエピソードがあると思いますが…。

『龍馬伝』の企画の最初の頃は、ちょうどアメリカの大統領選でオバマさんの「チエンジ!」の頃でした。僕らも龍馬とともに動いて、変えなきや!という気分にとりつかれていた。龍馬さんとつきあつた3年間は、僕の企画では最長です。龍馬の目線で物事を見て考えてやつて、考え方が似ちやう。それが僕は楽しいんですね。

作り手の仕事は、龍馬さんを客観的に評価したり判断したりすることではない。また、その人が素晴らしい人だったとかではなく、その人の気持ちになつて作るだけです。

自分がそこに同化して作っていると、今まで自分になかった考え方とか目線が生まれる。他人の人生を追体験するということは、写経のようにあの時代の言葉が体に入つてきて、似たことをやつしている。その仕方が相当入り込んだやり方だったので、頭がおかしくなつていつたんですね(笑)。

かつた人だと思う。革命の方には二つあって、一つは自分の周囲の環境を変えるやり方と、環境は変わらないけど自分を変える、自分が変わると世の中が変わるというやり方ですね。龍馬は自分が変わることで世の中を変えたんじゃないかな。いろんな人に会つて自分自身が変わっていくと、世の中の見え方が変わっていく。馬がどうやって入つていくの?入れたの?というように、現場で分かることってあるんですね。

例えば龍馬の暗殺現場だってセツに入ると、「これつておかしいよね。この距離で外から入つてきた人に龍馬が殺されるわけがない。中岡じやないか?」なんてことをその場所に身を置いてみると思つたりするんですね。現場を作つて体験してみると文献とは違うことが分かるんですね。

実際にセットを作つていくと、ここに龍馬がどうやって入つていいのか?現場で分かることってある。何となく史実とは別の発見がある。

機上のものでない発見が現場にはあるんですね。

今までのシステム。例えば、今までの大河ドラマの映像を変えるんだと思った。

四十八年かけて作つてきたNHK看板番組の映像を変えるなんて、いろんな軋轍が起つてくる。でも、世の中を変えた龍馬だから変えなきやならない。変え

る!ということになつていつた。

そこを突破していくときの僕のエネルギーとかモチベーションになつてゐるのは、「だつて、しようがないじゃん。龍馬やるんだから」ってスタンス。龍馬じやなく徳川家康だったらそんなどと考えませんよ。

「だつて龍馬だから」と周囲を説得して、いつたから、完全に考え方が龍馬に近くなつちやつたんですね(笑)。

### NHK“脱藩”への道

——龍馬が、龍馬の考え方が、大友さんの体に入つてきました感じですね。それで、

どうなつた…。

そこで、いつの間にか、もう当然のよう

に(NHKを)辞めるという方向に気持

ちが行つて、辞めちゃつたんです。そう

いう意味で、龍馬はすごく僕に影響を

与えた人なんですね。だつて僕の人生が変わつたわけですもんね(笑)。

死して後日む”なんて言葉がワープ

と入つてくるんです。死んで初めて止まる、死ぬまで止まらない。松陰さんが桂

さんたちに教えて幕末の人たちをとり

こにした言葉。僕も止まつちやいけない

苦労させました(笑)。

会社の中になると、僕の「大友組」とい

うスタッフがいて、いつも一緒に会社か

記念館にも行つた。そこで、松陰さんの

死して後日む”なんて言葉がワープ

の言葉とか、やつたことつて心に強く残るんです。僕は『龍馬伝』が終わつてから、誰にも言わす一人でこうそりと関係者の

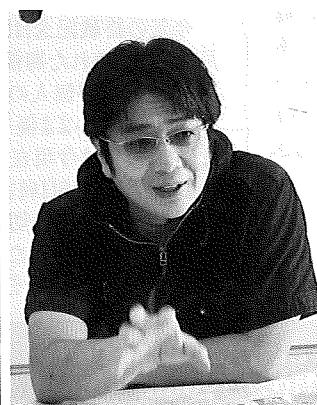
お墓参り巡りをしたんですね。長州山口で吉田松陰さんのお墓参りもして、

福山雅治さんにも龍馬みたいなところがあるから実現できただんでしょうね。

死して後日む”なんて言葉がワープ



### 幕末が役者に与えた影響



——龍馬役の福山さんははじめ、役者の皆さんの人物や時代への入り込み方といふんなんですが、役者たちには

見て、自分の言葉で説得する。相手の温度が分かって、自分の温度も伝わる。そんな温度を感じるつきあいを龍馬はしています。自分での温度じゃなく、相手の温度をこちら側に向き合わせていいかない

と何も生まれないから。直接会つて顔を取ること。それが龍馬さんはうまかっただろうな。

いくんです。感度って、相手の温度を読み取ること。それが龍馬さんはうまかっただろうな。

自分革命を本当の革命につなげていった人で、稀有で面白い人です。そういうところが龍馬の魅力。大きなことを言うんじゃなくて、自分をえていくことの延長線上で世の中を結果的に変えちゃった人ですね。

いろんな人に会つて自分自身が変わつていくと、世の中の見え方が変わつていく。馬がどうやって入つていくの?入れたの?というように、現場で分かることってあるんですね。

実際にセットを作つていくと、ここに龍馬がどうやって入つていいのか?なんて感じた、あるいは気づいたんですね。

——龍馬役の福山さんははじめ、役者の皆さんの人物や時代への入り込み方といふんなんですが、役者たちには

見て、自分の言葉で説得する。相手の温

度が分かって、自分の温度も伝わる。そん

な温度つて人と会うときにはとても大事

な体温を感じるつきあいを龍馬はしています。自分が上手だったんだじゃないかな。その辺を僕らは『龍馬伝』で表したかったし、主役の福山雅治さんにも龍馬みたいなところがあるから実現できただんでしょうね。

幕末は今とは人生の密度と熱量が違

うから、その熱量に負けないようにやら

なきやならない。僕たちは負けなかつた

と思いますよ。でも、役者さんたちには

なきやならない。僕たちは負けなかつた

と思いますよ。でも、役者さんたちには

なきやならない。僕たちは負けなかつた

と思いますよ。でも、役者さんたちには

なきやならない。僕たちは負けなかつた

と思いますよ。でも、役者さんたちには

### 東北大震災への思い



幕末は今とは人生の密度と熱量が違います。感度って、相手の温度を読み取ること。それが龍馬さんはうまかっただろうな。

温度つて人と会うときにはとても大事

です。自分での温度じゃなく、相手の

温度をこちら側に向き合わせていいかない

と何も生まれないから。直接会つて顔を取ること。それが龍馬さんはうまかっただろうな。

いくんです。感度って、相手の温度を読み

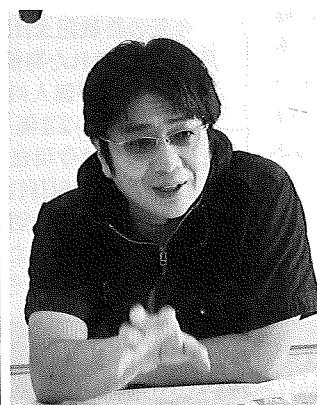
取ること。それが龍馬さんはうまかっただろうな。

自分革命を本当の革命につなげていった人で、稀有で面白い人です。そういうところが龍馬の魅力。大きなことを言うんじゃなくて、自分をえていくことの延長線上で世の中を結果的に変えちゃった人ですね。

いろんな人に会つて自分自身が変わつていくと、世の中の見え方が変わつていく。馬がどうやって入つていくの?入れたの?というように、現場で分かることってあるんですね。

実際にセットを作つていくと、ここに龍馬がどうやって入つていいのか?なんて感じた、あるいは気づいたんですね。

### 東北大震災への思い



幕末は今とは人生の密度と熱量が違います。感度って、相手の温度を読み取ること。それが龍馬さんはうまかっただろうな。

温度つて人と会うときにはとても大事

です。自分での温度じゃなく、相手の

温度をこちら側に向き合わせていいかない

と何も生まれないから。直接会つて顔を取ること。それが龍馬さんはうまかっただろうな。

いくんです。感度って、相手の温度を読み

取ること。それが龍馬さんはうまかっただろうな。

自分革命を本当の革命につなげていった人で、稀有で面白い人です。そういうところが龍馬の魅力。大きなことを言うんじゃなくて、自分をえていくことの延長線上で世の中を結果的に変えちゃった人ですね。

いろんな人に会つて自分自身が変わつていくと、世の中の見え方が変わつていく。馬がどうやって入つていくの?入れたの?というように、現場で分かることってあるんですね。

実際にセットを作つていくと、ここに龍馬がどうやって入つていいのか?なんて感じた、あるいは気づいたんですね。

### 自己革命を世の変革へ

——大友監督は直球を「ズボッとキヤツチ」とつても大きな出来事だったのです…。

事故は私たちの意識を変えた。大友さん

が上手だったんだじゃないかな。その辺を僕

らは『龍馬伝』で表したかったし、主役の

福山雅治さんにも龍馬みたいなところが

あるから実現できただんでしょうね。

死して後日む”なんて言葉がワープ

と入つてくるんです。死んで初めて止ま

る、死ぬまで止まらない。松陰さんが桂

さんたちに教えて幕末の人たちをとり

こにした言葉。僕も止まつちやいけない

苦労させました(笑)。

会社の中になると、僕の「大友組」とい

うスタッフがいて、いつも一緒に会社か

記念館にも行つた。そこで、松陰さんの

死して後日む”なんて言葉がワープ

と入つてくるんです。死んで初めて止ま

る、死ぬまで止まらない。松陰さんが桂

さんたちに教えて幕末の人たちをとり

こにした言葉。僕も止まつちやいけない

苦労させました(笑)。

期待されるネタや撮影の規模も変わらない。でも、そのときには僕はもう止まれない。ここで止まると一年間かけてやつてきた『龍馬伝』が嘘になるという

感覚になつた。死して後日む”という生き方をした人たちを一年間体験してしまつたんですね。

武市先生をはじめ、幕末の生き方とどうなつた…。

それで、いつの間にか、もう当然のよう

に(NHKを)辞めるという方向に気持

ちが行つて、辞めちゃつたんです。そう

いう意味で、龍馬はすごく僕に影響を

いた。龍馬が語るに足る資格、当事者適格性があるかどうか自分に問う。もし僕

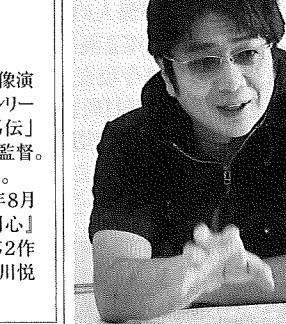
が認められたんだたら嘘はつけないつて。だから、自然に会社を辞めちゃつた

んです(笑)。



### 大友啓史(おおとも けいし) プロフィール

映画監督。1966年生まれ。慶應義塾大学法学部卒。90年NHK入局後、ハリウッドで脚本や映像演出を学ぶ。連続テレビ小説「ちゅらさん」シリーズ、ドラマ「ハゲタカ」「白洲次郎」「龍馬伝」等の演出、映画「ハゲタカ」(09年東宝)監督。イタリア賞はじめ国内外の賞を多く受ける。昨年4月NHK退局し、映画監督に。本年8月公開の監督第一作の映画「るろうに剣心」(佐藤健主演)も好評で、来年春には第2作「ラブナナデータ」(東宝/二宮和也、豊川悦司)公開予定。



——昨年3月11日の大震災や原発事故は私たちの意識を変えた。大友さんはいつても大きな出来事だったのです…。

僕の実家は岩手県盛岡市です。ちょうど僕が会社(NHK)を辞める決意を

した三月。東日本の半分がつぶれ、経済もぶぶれた。会社を辞める時期としては最悪でしたね。映画どころじゃないから

ね。僕は映画の企画はダメかもなと思

いながら、地元の盛岡に行く手段もないま

ま「るろうに剣心」の脚本を書き続けていました。地震の影響で、僕は映画のラ

ストとかいくつかのシーンを変えました。地元の影響で、僕は映画のラ

ストとかいくつかのシーンを変えました。地元の影響で、僕は映画のラ

ストとかいくつかのシーンを変えました。地元の影響で、僕は映画のラ

## 伏見の三十石舟

京都国立博物館 宮川 槟一

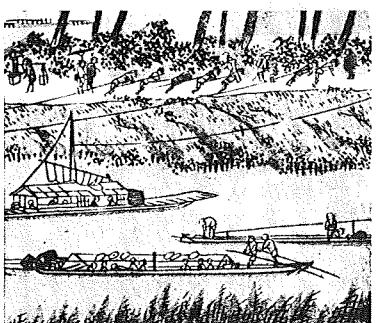
特別に好きというほどではないのですが、たまに落語を聴いてくるというような落ちだつます。東京国立博物館への出張のように記憶します。江戸時代から伝わる人情嘶をゆづくり聞くと江戸っ子の気分に行くことがあります。そこで江戸時代の雰囲気を味わえてとても気持ちの良いのです。〔幾夜餅に感動。〕ある夜、テレビ番組でなにげなく「三十石舟」という落語を聴いていましたら、これが歴史的にとても貴重な嘶だったので驚きました。

この落語全体をきちんと覚えて居るわけではありませんが、伏見の船宿から淀川をくだつて大坂八軒屋浜へ行く三十石舟（約三十人乗りの和船）が主題です。乗船しようとする旅客の生態がこまごまと描写されていて興味深いものでした。さまである人が出でています。もう満席の三十石舟に「もうひとり妙齡のお女中を乗せていただけないか」という船頭の声に好色な男性が「私の膝の上に乗つていきなさい」と応じるのですが、結

局は尿瓶をかかえた老婆が乗つてくるというような落ちだつたます。清河八郎も旅行記『西遊草』の中でこの三十石舟に乗った様子を記録しています。龍馬も乗つたに違いありません。歴史の研究といえば古文書を解説して：「という堅苦しいものが主流です。しかしそれだけでは分からぬ江戸時代後期の三十石舟のありさまや伏見の船宿の様子がこの落語の中に生き生きと描写され、現在もなお演目として伝わっていることに眼から鱗が落ちました。」

図版は、淀十両松付近を上下する三十石舟の様子（『淀川両岸観』文久元年版より。上りの舟は岸で人足が引ばる）

乗船名簿に「聖徳太子」という偽名を名乗る町人や、お土産物に伏見稻荷の土人形を持つて大坂八軒屋浜へ行く三十石舟に乗りあうので、そこに起きた喜劇を嘶としたものです。



### コラム・龍馬のこと

#### 「日本一の龍馬像を建てた若者たちの物語」を書いて

現代龍馬学会会員 椿原 康夫  
(札幌市在住)

この夏、拙著「日本一の龍馬像を建てた若者たちの物語」(東京図書出版)を出版した。昭和の初め、高知市・桂浜に、当時早稲田大学の学生だった入交好保氏ら高知の青年たちが中心になって建てた龍馬像をめぐるドラマだ。それは、実に「ひょんなこと」がきっかけだった。

NHK大河ドラマ「龍馬伝」が放映された2010年春、知り合いの映像制作会社から北海道・浦臼町の郷土史料館の仕事を引き受けたので手伝ってほしいという依頼があった。浦臼町は、高知県・本山町と姉妹町だ。明治26年に自由民権運動家の武市安哉らが入植し、31年には龍馬の甥・直寛が一家を挙げて移住した。そして、龍馬の夢の一つだった北海道開拓に大きく尽力した土地だ。リタイアして6年も経っていたので、一度はお断りしたが、「何とか少しでもと」と押し切られてしまった。龍馬ファンの私もまんざらではなかったが。それでも改めて龍馬のことを勉強しなければ、「龍馬がゆく」の再読や幾つかの資料に目を通した。そこで、突然私の目に輝かしい光を放って飛び込んできたのが、若者たちの快挙だった。

この立派な「ビジネスモデル」からは、多くのことを学んだ。一つは、若者たちが持つ可能性の大きさだ。不可能を可能にしてしまう行動力の凄さを認めていた龍馬像建設会長の野村茂久馬氏も、「未来は青年のもの」「百年後、青年諸君の像を仰ぐ日あるべきを信ず」と賞賛していた。二つ目は、昭和初期の若者たちが語った言葉の中には、人口・食糧・エネルギー問題などがあり、龍馬の遺志を継いで新しい日本をつくらなければならないという強い国家意識を持っていたということ。三つ目には、人生における「夢・希望・勇気・志」の大切さ、素晴らしさを再認識させられたことだ。人生70年を迎えた今、そのことを心深く思う。この2年間は、龍馬をはじめ土佐の偉人たちの想いを受け継いで、「今」に活かしている土佐の人々と風土の凄さを実感した日々でもあった。

### “話してみるかよ”

#### 肩書きを持たない派遣社員坂本龍馬

NPO法人高知龍馬の会 理事 井倉 俊一郎

大佛次郎原作1973年テレビ版「天皇の世紀」26話を見た。伊丹十三レポータによる現代(1973年当時)の河原町近江屋跡とその前にある土佐藩邸跡が映し出される。

なぜ龍馬は安全な土佐藩邸内にいなかったのか、宮地佐一郎氏いわく300年の身分制度の確執により下士である龍馬は邸内に居られなかつたのである。大政奉還の企画立案者は龍馬であるが提言者は山内家の後ろ盾がある上士後藤象二郎によってなされた。

アーネストサトウの日記に登場するパークス公使との対談にも山内容堂、後藤象二郎は頻繁に登場するが、龍馬については土佐より夕顔丸で長崎に向かうだけと、近江屋での暗殺事件についての2行で終わりである。

龍馬の職歴(プロフィール)を見てみよう。1863年勝海舟の神戸操練所にて塾頭となる。1865年操練所閉鎖の為解雇される。勝海舟の紹介で西郷隆盛(薩摩藩)から給金をもらい龜山社中(派遣会社)を設立。龜山社中の頭として有能な人材を育成する。

1867年後藤象二郎(土佐藩)にヘッドハンティングされ契約金アップでトラバーエ土佐海援隊をまとめ「いろは丸」事件では紀州から賠償金を勝ち取るなど土佐藩内でも交渉力ナンバー1の営業マンであった。しかし正社員の待遇を得たく無かったのか得られ無かつたのか、日本歴史の大転換を成した大政奉還後も藩邸に入らず醤油屋の土蔵暮らしであった。

大政奉還後の江戸城引渡し無血革命も徳川慶喜から勅命を受けた徳川家代表の勝海舟と薩摩藩代表の西郷隆盛による組織を背負った肩書きある人物同士の藩(会社)存続の折衝であった。龍馬は肩書きを持たない組織に属さない人であった。

だからこそ長州の木戸、薩摩の西郷互いの藩(組織)の面子にこだわる両人を和合させることができた。

今年の終戦記念日に放映されたドキュメント番組を見た。1945年終戦数ヶ月前に開催された御前会議にて面子にこだわる海軍、陸軍、内閣、外務省各組織のトップが個人の見識ではなく組織の見解として会議に臨み、いつまでも決断できないまま優柔不断な先送りが壊滅的路へと日本国民を追い込んだ事は今現在も起こりうることである。

1867年11月15日肩書きを持たない派遣社員坂本龍馬は大政奉還後お役ごめんで暗殺(派遣切り)に合ったのかも知れない。今政治経済が混沌としている現在肩書きを持たなくても日本のやるべきことを決断できる龍馬スピリッツを持った人物の登場を強く望む。